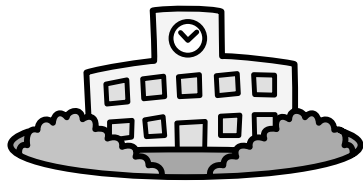


高校再編！ これからどうなる？

少子化による生徒の減少や社会の変化などに対応するため、大分県教育委員会(以下：県教委)では、県立高校の再編整備を進めています。平成17年3月に作成した「高校改革推進計画」に基づき、これまで前期計画として大分、別府、豊肥などの各地域の県立高校の再編整備を進めてきました。

そして今、後期計画(平成22年度～26年度)として佐伯市の県立高校についても再編整備の検討が進められています。これに対し市は、佐伯の将来を担う子どもたちのため、県南教育活性化のために、「高校再編整備



に関する建議書」を作成し、県教委に提出。さらに、佐伯市議会も意見書を提出しており、関係者は積極的な行動を起こしています。しかしその一方、佐伯市PTA連合会(以下：市P連)が行ったアンケートの結果、市民の間では、高校再編について詳しく知らされていないこともわかりました。高校再編の内容や現状はどうなっているのでしょうか…。

高校再編の基本的な考え方は？

- ① 適正な学校規模は1学年6～8学級(1学級40人)とする。ただし、生徒や学校の実情により、4～5学級も可能。
- ② 学校・学科については、県全体のバランスを考え、現在の6つの通学区域内に複数の学校を配置し、学科は地域の状況等を考慮して配置する。
- ③ ささまざまな生徒の学習ニーズに対応するため、総合選択制高校や中高一貫教育校、単位制高校等、新しいタイプの学校を設置、導入する。などがあげられます。

なぜ今、高校再編なのか？

- ・ 少子化により中学校卒業生数が減少し、学級数の少ない高校が増えていること
 - ・ 高校進学率が98%に達した現在、生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望などの多様化に対応するため
 - ・ 子どもたちが社会の変化に十分対応できるように教育環境を整備するため
- などが再編の主な理由です。

佐伯市の県立高校はどうなる？

現在、市内には3つの県立高

校があり、それぞれの高校1年生の学級数は、佐伯鶴岡高校6学級、佐伯豊南高校5学級、佐伯鶴岡高校3学級です。

1月9日に示された県教委の再編案では**佐伯豊南高校と佐伯鶴岡高校を統合し、今の佐伯鶴岡高校の場所に専門・総合学科の新設校を設置する**方向で検討するとされています。

佐伯市の県立高校を、普通科の佐伯鶴岡高校と専門・総合学科の新設校の2校とするその理由としては、佐伯市内の中学校

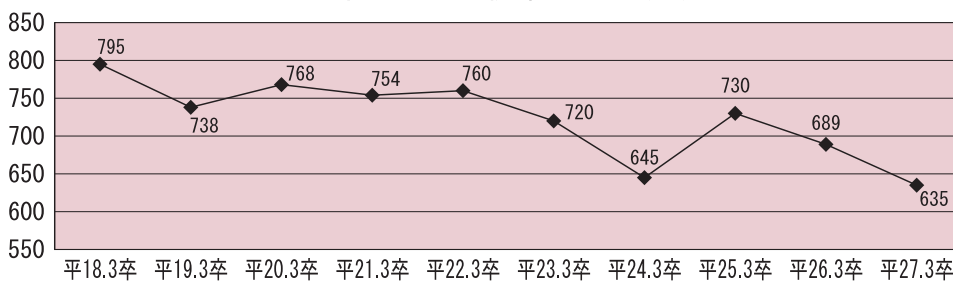
～市が県教委に対し建議書を提出～

【要望事項の要旨】

- 1 後期高校再編の必要性和内容について十分に周知すること
- 2 市内3校を存続し、再編による定員減を行わないこと
- 3 大学進学を目的とした進学系普通科高校の単独設置
- 4 専門性を高め、資格取得が可能な総合選択制高校の設置
- 5 専門教育をさらに深められる5年制の学校の設置

以上の内容で、1月7日に建議書を提出しました。

佐伯市内の中学校卒業予測(人)



卒業者が今後も減少を続けることがあげられます(グラフ参照)。平成27年3月に中学校を卒業予定の生徒は635人となり、前期再編整備が始まった平成18年3月より160人(4学級分)減少すること等から、県立高校を2校とする計画になりました。

●佐伯市の県立高校の今後はどうあるべきか

市P連が、市内の小中学校に通う児童・生徒(2,439人)と保護者(2,127人)、教職員(546人)を対象に「佐伯市の県立高校の今後のあり方に関するアンケート」を昨年10月に実施しました。

その結果を分析すると…

1 小学生の57%、中学生の63%と、多くの子どもたちは、佐伯市内の高校を希望している(市外の高校希望は小学生19%

中学生18%)。

2 保護者の多く(72%)も市内の高校進学を希望しており、経済的な面も含め、親元から高校へ通わせたいという考えが多い。

3 「高校再編が行われるとすれば、どのようなかたちを望むか」という質問には、71%の保護者が、3校の存続を希望し、2校での再編という意見は22%、1校もやむを得ないという意見はわずか3%だった

4 児童、保護者の希望する学科は、普通科、福祉系が多く、総合学科、商業系、工業系の希

望もみられた。

といったことがわかりました。以上から、市内の児童、保護者の多くは市内の高校への進学を希望していること、また、高校の再編にあたっては、現行の3校を保ってほしいという思いが強く、特に、1校への編成には応じられないという意志が感じられます。学科については、将来のために福祉などの資格がとれる学科の設置を希望しているようです。

市P連は、このアンケート結果に基づき、要望書を作成し、県教委に提出しました。



佐伯市PTA連合会の梅田会長に高校再編についてお話を伺いました

地域の子どもは地域で育てる

後期高校再編計画でまず不安なのが、現行3校ある県立高校が2校になることなどにより、県立高校の定員が減少し、子どもたちが地域から離れてしまうことです。社会に出るまでには、学校だけでなく家庭で学ぶ大事なことも多い。地域に住む子どもたちを地域で育てていくことは、とても重要だと考えています。

魅力のある学校づくりを

これからも今までどおり子どもたちが地域の高校に安心して進学できるように、魅力のある学校づくりが必要です。普通科のある進学校は、よりレベルアップを図り、また、就職に役立つ資格を取得するため、福祉・商業・農業・工業などで高い専門性をもつ学科を設置するといった、そんな「この高校に行きたい!」と思える学校づくりのために、要望していきます。

今後の活動

今後は、前期の高校再編の対象校を視察に行くなど、より学習を深め、県教委にしっかりとした要望や意見を伝えていきます。市民の皆さんを交えての説明会なども行います。ぜひ参加して、一緒に考え、再編に対しての意見等を聞かせてください。

●高校再編への意見を交わす懇話会が行われました

1月18日、大分県佐伯総合庁舎で「地域別高校再編懇話会」が行われました。

懇話会には市内の学校関係者やPTA代表、産業経済関係者などが出席し、今回の高校再編による不安の声や、要望を県教委に伝えました。



1月18日の懇話会の様子

県教委の担当者は、「これからも意見や要望を伺って、検討していくので、地域の方々と高校再編についてもっと考えて欲しい。説明会など、要望があればすぐに足を運びます」と話していました。

ここまでで紹介した「後期高校再編」については、まだ素案の状況であり、県教委は、これから住民の皆さんの意見を聴いて、4月をめどに本素案を作成し、秋には計画を決定する方針としています。

再編計画には、さまざまなメリットもある中で、地元から高校が減る、地元から子どもたちが離れるなどの不安もあります。子どもたちの将来のために重要な高校進学についての課題に市、佐伯市議会、市P連といった関係者が協力して、この問題に取り組んでいます。佐伯の将来を担う子どもたちのためにも、この高校再編について、皆さんもぜひ一度考えてみてください。